

社会から期待され、 信頼される企業であるために



代表取締役社長 **梶尾 和雄**

「創造 貢献」を理念として

カシオは「創造 貢献」を理念として掲げ、世の中にない独創的な製品を創造することで、人々の暮らしを豊かにすることに貢献してきました。

具体的には、世界初の純電気式リレー計算機『14-A』を始めとして、個人用電卓『カシオミニ』、デジタルキーボード『カシオトーン』、耐衝撃腕時計『G-SHOCK』、世界初の液晶モニター付きデジタルカメラ『QV-10』、ウェアラブルカードカメラ『エクシリム』などの開発に、この「創造 貢献」の精神が端的に表れています。

これらの製品は全て、人々の持つ普遍的な欲求を的確にとらえ、それを身近な商品として提供することで、新たな需要を創造し事業化したものでした。そして、これらの製品はお客様の期待を超えて感動をもたらすと同時に、新しい文化や生活シーンを切り開き、豊かな生活の実現に貢献してきました。

また、カシオはこうした事業を進めるにあたっては、『小型・軽量・薄型・省電力』を独自のコア・コンピタンスとし、環境負荷の低減を重要な企業活動としてとらえ、事業を通じてかけがえのない地球資源と環境を保全することに努めてきました。

CSRを経営の最重要課題として

こうした歩みを踏まえて将来を展望したとき、カシオは企業が持続的成長を果すためには、地球環境の保全と社会の持続的発展が不可欠であり、経済・社会・環境という、CSRの三側面のバランスに配慮した企業活動に努めることが、極めて大切であると考えています。しかし、それは企業の本来の業務からかけ離れたものではなく、日常の業務を通じてあたりまえのように、実行できるものでなければなりません。

そのためには、単に形式的に仕組みや体制を整えるだけでは不十分であり、実際に仕事をする役員をはじめ、カシオで働く全

ての従業員の意識や、組織の風土が重要となってきます。そこで、カシオでは仕事をする上でのあるべき姿を再構築し、「創造 貢献」という理念の今日的な意味を問い直し、2003年に「カシオ創造憲章」・「カシオ行動指針」として制定しました。カシオはこれらの内容が記載されたカードを、全従業員に配布し、全員が署名の上、常時携帯することなどを通じて周知徹底を図っています。

また、2004年4月にはCSR推進室を新設し、CSR経営を推進する上での現状分析と課題抽出に取り組むとともに、CSR意識の啓発に取り組んできました。こうした取り組みを基盤として、同年12月には取締役と監査役で構成する「CSR委員会」を設置し、CSRに関する各種テーマについて審議する体制を整えました。今後とも、こうした従業員の意識・組織風土を基盤としつつ、CSRマネジメント体制の確立に努め、皆様からの信頼にお応えするカシオグループをめざしてまいります。

カシオグループのCSR経営

ご承知のとおり、CSRの対象は広範な領域に及ぶとともに、関わりを持つステークホルダーの違いによって、取り組むべき活動内容や、その優先度合いが異なってきます。カシオはこうした視点に立ち、CSR経営のあるべき姿を追求してまいります。

顧客、取引先、株主・投資家への責任

ネットワーク社会の進展に伴い、世界の各地域での需要に応じたグローバル・サプライ・チェーンの最適化を推進するとともに、常に次代の需要を見据えた研究開発を進め、知的財産戦略の強化を図り、高付加価値経営を推進してまいります。

地球環境への責任

カシオのコア・コンピタンスである「小型・軽量・薄型・省電力」技術を活かし、引続きグリーン商品比率の向上に取り組んでまいります。また、引続きグローバルな環境基準・規制に的確に対応するとともに、地球温暖化対策についても、全社で省エネルギーへの取り組みを進めてまいります。

従業員への責任

性別、信条、宗教、人種、社会的身分、身体障害などの差別なく、公正に就業機会を提供し、誰もが価値創出に挑戦する喜びを享受できる企業文化の醸成を図るとともに、次世代育成支援対策推進法の施行も踏まえ、家庭と仕事の両立が図れる職場環境づくりに注力してまいります。

社会への責任

カシオはこれまでも「環境保全」「教育」「文化・芸術」「学術・研究」「地域社会」を社会貢献における重点分野と位置付けて活動してきました。今後は特に環境保全と次世代を担う子供達への教育に関わる取り組みを強化してまいります。

このように今後とも、ステークホルダーの方々との“尊敬と信頼の絆”を育むために、社会の要求に誠実かつ敏感にお応えするとともに、さらに自主的な責任を設定し、その遂行に努めてまいります。

カシオはこうした考えに基づく活動を展開しておりますが、今般2004年度の活動を報告書としてまとめました。もちろん、決して十分な内容であるとは申せませんが、今後の活動は皆様との対話によって、より進化させていく所存であります。皆様方の忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。